



### 青葉会精神よ、永遠たれ！

校長 須藤 勝

栄枯盛衰、盛者必衰などと、わが国では古来、語り継がれてきました。この世に生まれた私たち人間に寿命があるように、物事には必ず始めと終わりがあるということでありましょう。肝腎なのは、物事の始めは将来を見通した遠大な計画のもと、高い理想を掲げて取り組むことであり、物事の終わりは、それまでの多くの成果を深く胸に収め、深く、美しく振る舞うことであると考へます。

伝統ある三田高校の定時制課程も、平成二十年三月でその幕を閉じます。本日（十月四日）、最後の生徒達が北海道修学旅行に出発しました。在籍して十名全員が遅刻者もなく集合場所の羽田空港に集まり元気に出かける姿を校長は見送りました。いまとき、定時制で全員が修学旅行に参加するということは快挙といってもいいでしょう。生徒と保護者の心意気を感じられ、とても嬉しい気持ちになりました。

三田高校・定時制の精神を、しっかりと三田高校に根付かせ、残された全日制にも



### 三田の夜景

副校長 矢島 賢二

後ろを振り向くと百万ドルの夜景が見えるのが、今の私の席だ。昨晩は、中秋の名月だった。先生に教えられ、三階の職員室を出て、四階に上った。最後の学年になってしまふ教室からは百万ドルの夜景、つまり銀色に輝く東京タワーが見え、廊下を隔てて反対側に行けば中秋の名月が見えたのである。

しばらく、教室から銀色のタワーを見、そして名月を眺めて色々な感慨にふけてしまった。残念ながら、三田高校の定時制は、閉じてしまふ。周囲に病院・企業・工場・大学・大使館などひしめく中でも、下町的な民家も連なる場所である。一時期は、一学年三学級規模の学校であった。たくさん生徒がここに通い、そして夜空を眺めながら帰っていったことだろう。美しい夜景と共に、青春の夢と希望を育む学校であっただろう長い歴史に思いを馳せて、閉校の幕引きをしよう。



### 雑感

旧職員 若林 明弘

私が、三田高校定時制へ赴任したのは、平成元年四月で、勤めたのは三年間ですが、以降二十年三月の閉校まで、毎年十回ほど、青葉会役員会や、学校運営連絡協議会で、三田高校を見続けてきました。五十三歳から二十年間です。

勤務した三年間での思い出には、「いじめ、上履・下履、喫煙、出席日数、授業料の未納などの指導で、生徒の学力向上に向けたエネルギーより、多く費やしたように思います。でも今となっては、すべてが懐かしい。

青葉会役員とのお付き合いは二十年になりますが、同年輩から二十歳位年下になりますが、会員と同じような気分で付合って頂きました。皆、真面目で人間味に溢れ、仕事熱心で、私が大好きになれる人の集団でした。ですから、どんな会にも、気持ちよく出席できました。

午後七時からの会の直前に、皆と食べるおにぎりの美味しさや、役員会後の有

